

平成26年度 福島小学校 研究の構想

時代の要請

国際化が進む社会において、異なる文化をもつ人々とコミュニケーションを図ったり違いを認め合ったりする心や態度が求められている中、学校現場では、自分の思いを表現したり他者の思いを受け止めたりするための語いや表現力・理解力等、言語能力の育成、人とかかわる力の育成が求められている。

地域の実態

徳島市の中心地域に位置し、木工の町として栄えた歴史ある地域で、古くから住んでいる人と他から転居して来た人が混在し人間関係はやや希薄であるが、学校に対しては協力的である。

学校教育目標

「就将」の精神を基盤として、
確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

- | | | |
|---|---|---|
| ○心豊かな子ども
・豊かな感性をもち、素直に感動できる子
・他を思いやり、共に生き方を考える子 | ○確かな学びを身に付けた子ども
・進んで学習し、自ら学力をつけていく子
・よく考え創造し豊かに表現できる子 | ○心身ともにすこやかな子ども
・運動を好み、進んで健康づくりをする子
・判断力を身に付け、行動できる子 |
|---|---|---|

【めざす子どもの姿】

- 相手の話をしっかり聞いて理解しようとする子
- 自分の思いを伝えるための工夫や努力をする子
- 共に伝え合い学び合い、自己を高める子
- 課題を解決するために、進んで学習に取り組む子
- 偏見をもたずに様々な人とかかわり、相手への理解を深め、働きかけようとする子

児童の実態

- ・素直で子どもらしく、街中にいながら素朴な面をもっている。
- ・しなくてはならない課題については、まじめに取り組むことができる。
- ・あいさつが少しずつできるようになってきている。
- ・人の話を最後まで聞くことができない。
- ・場に応じた声ではきはきと話すことが十分にはできていない。
- ・自分の考えや思いを表現する意欲が乏しい。
- ・人間関係が固定化しがちで周りの人に自ら働きかけることができない。

〈研究主題〉

コミュニケーション能力の素地を養う外国語活動
- 「たのしむ」「かかわる」「つながる」活動を通して -

【研究仮説1】

場面設定を工夫し、他者を尊重する気持ちや目的意識のある活動をさせることにより「聴く力」「伝え合う力」を伸ばし、コミュニケーション能力の素地を養うことができる。

研究内容1

全ての教科・領域における言語活動の充実を土台にした外国語活動

- 1 全学年による「共に学び合い・高め合う」ための言語活動の充実
- 2 系統性と相関性をもった年間指導計画の作成
- 3 Hi, friends! の効果的な活用と他教科等との関連付け

研究内容2

子供たちがより具体的な目的意識・相手意識をもって主体的に活動する外国語活動

- 1 問題解決的な単元構成の工夫
- 2 協同的な活動の工夫
- 3 聞きたい・伝えたいという場面設定の工夫
- 4 単元の展開と授業実践

【コミュニケーション能力】

単なる情報や知識の伝達能力だけでなく、相手に対する関心、想像力、理解力、思いやり、表現の技能や工夫などを伴った力

- 受け止める・・・相手の話していることを聞こうとする態度
相手の話していることから内容を理解する力
相手の非言語による発信を受け止める力
- 伝える・・・相手に聞き取りやすい話し方
相手が理解しやすい表現で話す力
場面や状況を考えて伝える力

【コミュニケーション能力の素地】

外国語活動を通して養われる、言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

【「たのしむ」「かかわる」「つながる」】

- 「たのしむ」・・・活動そのものを楽しむ
他者とのやり取りを楽しむ
外国語との出会いを楽しむ
未知のことがらを知ることを楽しむ
- 「かかわる」・・・人とかかわる
言葉とかかわる
様々な文化とかかわる
自己とかかわる
- 「つながる」・・・友達、先生など身近な人とつながる
地域の人、ALTや留学生とつながる
学びがつながる
世界の人々とつながる

【評価の観点】

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- (2) 外国語への慣れ親しみ
- (3) 言語や文化に関する気付き

【研究仮説2】

ねらいを明確化し、それに沿った評価規準を設定し、学習状況や児童の変容を的確に把握することによって、指導の見直しや改善につなげ、個々の子どものコミュニケーション能力の素地を養うことができる。

研究内容3

学習活動のふり返りを大切にして、教師による見取りを指導に生かしたり、成長・よさを自己肯定に結びつけたりする外国語活動

- 1 ふり返り・評価カード等の工夫改善
- 2 指導支援に生かすための教師による教科の充実と工夫
- 3 自己肯定・他者尊重に結びつけられる自己評価の工夫

共に学び合い、高め合うための言語活動の充実

基礎学力の向上	言語能力の育成	論理的思考力の育成
○学習規律の確立 ○基礎的・基本的な知識・技能の習得 ○家庭学習の充実 ○読書活動の推進	○語い力の確実な定着 ○「聞く・話す・読む・書く」4技能のスキルアップ ○多様な学習形態を取り入れた表現の場の設定 ○豊かな言語環境づくり	○練り合い深め合う授業づくり ○思考の道筋や考えた内容を明確にするノート指導 ○問題解決的な授業づくり ○自ら考え、判断し、表現する力の育成

自己肯定感・自己有用感の形成

互いのよさを認め合い支え合う仲間づくり

相手を尊重しながら聞く態度の育成

思いを伝え合う意欲の高まり、態度の育成

豊かな感性・情緒をはぐくみ、良好な人間関係を築く学習活動の充実